

## 地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

令和2年度地域公共交通確保維持改善事業の自己評価について、中部運輸局へ別紙のとおり報告します。

### ◇事業評価について

中津川市では、国土交通省の「地域公共交通確保維持改善事業」を活用して、公共交通の確保維持に取り組んでいます。国の地域公共交通確保改善事業による支援を受けた事業については、毎年度、公共交通会議自らによる事業の実施状況の確認、自己評価を行い、その結果を地方運輸局に報告することとされています。

### ◇自己評価資料について

- ①自己評価（一次評価）作成様式                     ・・・別添1、別添1－2
- ②第三者評価委員作成様式                             ・・・中部様式

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年11月24日

協議会名:

評価対象事業名:

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 矢平線	・地域公共交通網形成計画に基づいて事業を実施した。特に生活交通確保維持改善計画に関係する主な事業は次のとおり。  ①公共交通の運行を継続します(地域公共交通網形成計画 P.14参照) →補助対象系統を含め、市内9地区でコミュニティバスを運行(補助対象系統は2地区12系統)	A コロナの影響による運休はあったものの、運行は計画どおり適切に実施された。  【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 204回(コロナ運休2回) 【運行割合】 99.0%	C 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/790人以上 実績/230人(達成率29.1%) 【考察・利用状況】 ・火曜日はほぼ毎週決まった方の利用。 ・新型コロナウイルス感染防止によりほととサロンでゆっくり休めないため帰りの利用が減った。	・新型コロナウイルスの影響でほととサロン(健康増進施設)が休館となり、施設を利用するバス利用が大幅に減少した(前年3月比▲88.6%) ・福岡地区の路線の中でも利用が少ない路線であるため、今後路線の見直しについて地域や運行事業者と協議を行う。
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 若山線	②「ほととバスで公民館講座」(地域公共交通網形成計画 P.20参照) →バス運行時刻に開講時間を合わせた公民館講座を企画。公民館講座を通じて公共交通を利用するきっかけを作る。  ③のりものふれあい広場を開催します(地域公共交通網形成計画 P.22参照)	A コロナの影響による運休はあったものの、運行は計画どおり適切に実施された。  【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 204回(コロナ運休2回) 【運行割合】 99.0%	C 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/263人以上 実績/17人(達成率6.5%) 【考察・利用状況】 ・頻繁に利用していた方が乗車しなくなったため、かなり利用者が減った。 ・初めての利用される方もあったが1度きりだった、	・福岡地区の路線の中でも利用が少ない路線で、国補助対象から外れたものの運行を継続してきたが、今後路線の見直しについて地域や運行事業者と協議を行う。

北恵那交通株式会社	【福岡地区】 新田線	<p>→公共交通の必要性や役割を考えるきっかけづくりの場として利用促進イベントを開催。</p> <p>④路線バスとコミュニティバスの乗り継ぎ割引(地域公共交通網形成計画 P.17参照) →路線バスとコミュニティバスを乗り継いで利用した場合には、コミュニティバス運賃相当分の割引を行う。</p>	<p>コロナの影響及び特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>A 【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 200回(コロナ運休4回、特別警報運休2回) 【運行割合】</p>	<p>B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/905人以上 実績/541人(達成率59.8%) 【考察・利用状況】 ・時々利用者も平均して多くあり一番利用の多い路線。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響でほっとサロン(健康増進施設)が休館となり、施設を利用するバス利用が大幅に減少した(前年3月比▲63.2%) ・人口が減少する中、利用者の増加を見込むことは困難ではあるが、若い高齢者のバス利用を勧め、免許返納者へ向けたPRを行う。</p>
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 本郷線	<p>⑤経路検索の充実に向けたデータ整備(地域公共交通網形成計画 P.23~24参照) →既存利用者の利便性向上のため、インターネットでの経路検索を充実させる。</p>	<p>コロナの影響及び特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>A 【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 200回(コロナ運休4回、特別警報運休2回) 【運行割合】</p>	<p>B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/767人以上 実績/251人(達成率32.7%) 【考察・利用状況】 ・定期券利用者が3月くらいまであったがそれ以降は定期券利用者はいなくなった。 ・通院利用の方が数ヶ月に1回くらいの割合で利用がある。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響でほっとサロン(健康増進施設)が休館となり、施設を利用するバス利用が大幅に減少した(前年3月比▲98.2%) ・定期券の利用者の確保は、利用人数の維持につながる。定期券の購入でお得に利用できることをPRする。</p>
北恵那交通株式会社	【福岡地区】 上之平・下組線		<p>コロナの影響及び特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>A 【計画運行回数】 206回 【実績運行回数】 200回(コロナ運休4回、特別警報運休2回) 【運行割合】 97.1%</p>	<p>B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/544人以上 実績/217人(達成率39.9%) 【考察・利用状況】 ・定期券利用の方が2~3人のほか新しい利用者が3人ほど増えた。 ・全体的にはほっとサロンで午後までゆっくり出来ない為、利用されない方が多くなった。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響でほっとサロン(健康増進施設)が休館となり、施設を利用するバス利用が大幅に減少した(3月前年比▲86.5%) ・今後も引き続き利用者が維持できるようお得なバスの利用方法や、買い物でもバスを利用できることを周知する。</p>
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野線		<p>特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>A 【計画運行回数】 241回 【実績運行回数】 240回(特別警報運休1回) 【運行割合】 99.6%</p>	<p>B 【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/724人以上 実績/591人(達成率81.6%) 【考察・利用状況】 ・朝一の初便、今年高校生になった生徒が毎日利用しているほか、赤田地区からの利用者も1名あり。 ・2便目は利用者無しの便が目立つようになった。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響で小中学校が休校となり、通学バス利用が大幅に減少した(前年3月比▲53.1%) ・早朝の便であるため、通勤での利用者の増減が、そのまま利用者の増減に直結する。 ・引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。</p>

株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・外洞線(短縮ルート)
株式会社サカガワ	【坂下地区】 上野・合郷線

A	特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された  【計画運行回数】 241回 【実績運行回数】 240回(特別警報運休1回) 【運行割合】 99.6%	B	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/1740人以上 実績/1295人(達成率74.4%) 【考察・利用状況】 ・下校の児童・生徒の利用が多い。 ・最終便、高部に越してきたと思われる高校生と市営高部住宅に在住の方が使われるようになった。	・新型コロナウイルスの影響で小中学校が休校となり、通学バス利用が大幅に減少した(前年3月比▲90.9%) ・主に帰宅する小中学生のスクールバスとして利用されている。 ・一般利用が少なく、小中学生が利用しない場合には利用無しの便となることから、R2.10から中原バス停以降を降車専用化し、効率的な運行を行うこととした。 ・児童生徒の利用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。
A	特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された  【計画運行回数】 120.5回 【実績運行回数】 120回(特別警報運休0.5回) 【運行割合】 99.6%	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/728人以上 実績/1547人(達成率212.5%) 【考察・利用状況】 ・下校の児童・生徒の利用が多い。	
A	特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された  【計画運行回数】 241回 【実績運行回数】 240回(特別警報運休1回) 【運行割合】 99.6%	A	【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/312人以上 実績/537人(達成率172.1%) 【考察・利用状況】 ・系統の認知度が高まり、乗客がこの時間のバスに利用されるようにうまく行動されている。 ・市街地から上野方面への帰宅、また上野と時鐘・矢淵から市街地へ行かれる利用者が増えた。 ・小学生の早帰り時(4時間授業終了の際)にも児童がこのバスを利用するようになった。	・目標値を大きく上回っている系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。

株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(上り)	<p>特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 241回 【実績運行回数】 240回(特別警報運休1回) 【運行割合】 99.6%</p> <p>A</p>	<p>【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/2112人以上 実績/1412人(達成率66.9%) 【考察・利用状況】 ・1便目は昨年度と比較すると登校に利用される児童・生徒が若干減少していると思われる。 ・ここ最近、坂下高部に越してきたと思われる高校生が登校に利用されるようになった。2便目は利用者無しの便が目立つようになった。</p> <p>B</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響で小中学校が休校となり、通学バス利用が大幅に減少した(3月前年比▲83.4%) ・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。</p>
株式会社サカガワ	【坂下地区】 外洞線(下り)	<p>特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 120.5回 【実績運行回数】 120回(特別警報運休0.5回) 【運行割合】 99.6%</p> <p>A</p>	<p>【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/300人以上 実績/258人(達成率86.0%) 【考察・利用状況】 ・帰宅時に利用する小中学生の利用がある。 ・利用者無しの便が目立つようになった。</p> <p>B</p>	<p>・沿線に住む小中学生の数により、毎年利用人数が変動する路線である。 ・比較的使用が多い系統であり、引き続きバスが利用されるよう推移を見守る。</p>
株式会社サカガワ	【坂下地区】 西方寺・握・高部線	<p>特別警報発令による運休はあったものの、計画どおり事業は適切に実施された</p> <p>【計画運行回数】 482回 【実績運行回数】 480回(特別警報運休2回) 【運行割合】 99.6%</p> <p>A</p>	<p>【定量的達成状況】 ・利用者数は基準年度(H28)以上とする。 目標/908人以上 実績/576人(達成率63.4%) 【考察・利用状況】 ・利用区間が坂下駅～坂下診療所で行きかえり利用されるのが多く、沿線にお住まいの方の利用が減少している。</p> <p>B</p>	<p>・タクシー利用が多い時間帯に運行する便であることから、バス利用もできることを周知する必要があり、今後も推移を見守る。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年11月24日

協議会名:	中津川市公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>中津川市は岐阜県の東南端に位置し、山間部に集落が点在する中山間地域で豊かな自然と美しい景観に恵まれたまちです。市の東南部にJR中央線を有するが、中心地域以外は路線バスがほぼ唯一の交通手段となっています。しかしながら、自動車利用の増加に加え、人口減少や少子高齢化によって公共交通の利用者が減少していること、また運転手不足の影響により、交通事業者の経営努力だけでは公共交通網の維持が困難になりつつあります。</p> <p>地域の交通体系におけるマイカーの重要性を認識しながら、利便性が高い公共交通ネットワークを実現し、複数の交通機関が役割を分担し、誰もが行きたいときに行きたい場所に行ける持続可能な公共交通網の構築を目指します。</p>

中部様式

令和2年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

## 中津川市公共交通会議

平成20年6月4日設置

フィーダー系統 令和元年6月25日 確保維持計画策定等

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
<p>【評価できる取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幹線バスとコミバスの乗り継ぎ割引の実施や、利用者のニーズをくみ取った利用促進を行われている点を評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 評価していただいた地域公共交通網形成計画に基づいて実施する20事業を、今年度も着実に実施しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も地域公共交通網形成計画に基づいて実施する事業を「できることから、ひとつずつ、そして着実に」実施し、地域公共交通網の維持に努めます。</li> </ul>
<p>【期待する取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画に基づき事業を実施するとともに、目標値に満たない路線については利用状況を分析し、事業を実施するようお願いします。</li> <li>・ 運転手不足や路線の収支悪化に伴う民間路線バスの縮小が懸念されますので、持続性について関係者と協議するよう期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指摘のあった問題が現実として起こりました。2021年3月末をもって東鉄バス中津川線と蛭川線が廃止されることになりました。</li> <li>・ 交通事業者や岐阜運輸支局、岐阜県、関係自治体と地域に合った代替手段について協議を行いました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年4月から東鉄バス中津川線は北恵那交通へ運行委託し市内での運行を継続、東鉄バス蛭川線は蛭川地区コミバスと合わせて再編します。利用者数の推移を確認しながら効果の検証を行っていきます。</li> <li>・ 引き続き交通事業者や関係者と協議を重ね、課題の共有・解決を図ります。</li> </ul>

## 中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ①利用者の減少で公共交通網の維持が困難に
  - ✓ 自動車利用増 (2.33台/世帯、全国1.41台/世帯)
  - ✓ 人口減少・高齢化 (国調△2,027人、高齢化率31.7%)
- ②誰もがわかりやすい公共交通となっていない
  - ✓ バスを利用する外国人旅行者増大も案内不足
  - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③運転手不足で公共交通網の維持が困難に
  - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

## 中津川市地域公共交通網形成計画 (2018.3策定)

### ■基本方針

- ✓ 住んでよかった、住んでみたい街に

### ■目標

- ✓ 住み続けられる街に  
～定住を支える公共交通
- ✓ 来てよかった、また来たい街に  
～観光と利用促進
- ✓ 運転手不足解消に向けて  
～誰もが活躍する街に

### ■期間

- ✓ 2018年度～2022年度までの5年間



目指す姿とは

利用者を確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…

**いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！**

中津川に住もう！

■ 地域公共交通網形成計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、パーク&ライド、公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、タクシーを活用したお出かけの推進 など
②観光と利用促進	インターネットによる経路検索の充実、クリスマスバス、利用促進イベント開催、公共交通を使った市内観光の推進 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

■ 2019-2020年度に実施した主な取り組み

★東京で移住相談&運転士説明会 (2019年度)



- ・ **移住**に興味を持つ方を対象
- ・ **運転士の仕事**に焦点を当てた相談会を開催 (参加者16人)

★低速電動バス実証実験 (2019年度)



- ・ 観光、生活路線で運行



★中津川駅前バス待合所の改善 (2020年度)



- ・ バス待合室に観光案内所を移転しリニューアル
- ・ **デジタルサイネージ**でバス発車時間を案内

★公共交通オープンデータの活用 (2019-2020年度)



- ・ データ整備から**データ活用**へ
- ・ 周辺自治体等のデータ整備に協力

★公共交通利用促進イベント (2019年度)



経路検索体験会



クリスマスバス

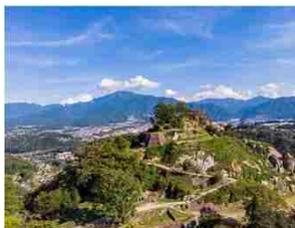
中津川に住もう!

# 計画に基づいた事業を着実に企画・実行しています！

具体的な取り組み

## アピール その1 山城日本一！苗木城跡 苗木城線が黒字を達成！

魅力あるコンテンツとの組み合わせで、公共交通の存在感を高め、収益を生む。



- 内容**
- 春と秋の土日祝に直行バスを運行
  - 来城者数増加（前年比164%）

- 結果**
- 乗車数増加（前年比250%）
  - 運賃収入増加で黒字化

## アピール その3 公共交通オープンデータの取り組みが評価される！

- 総務省ICT地域活性化大賞優秀賞受賞
- 中部運輸局長表彰受賞



## アピール その2 地方バス活性化のモデルに！ 低速電動バスに高い満足度！

- 2019年8月に中山道で観光路線、市街地で生活路線を無償運行
- 78%の利用者が**有料でも乗車したい**と回答。高評価を得た。



岐阜新聞（2019/10/6）



# できることからひとつずつ取り組んでいきます！

さらなるアピール 地域公共交通網形成計画の**進捗状況はWEBで公開**しています。  
<http://www.city.nakatsugawa.gifu.jp/page/070052.html>

### ■ 地域公共交通網形成計画における評価指標の考え方

- ✓ 網形成計画に基づく各種事業実施を通じ、
  - ①住民や来訪者による公共交通利用者を確保する
  - ②いつまでも中津川市に住み続けられる（高校生が自宅から通うことができる）
 ことを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 地域公共交通確保維持改善計画における目標値は、網形成計画の評価指標との整合性を図るため、補助対象系統ごとの利用者数を基準年度以上とした。
- ✓ 自己評価は2020年11月24日に開催した中津川市公共交通会議で承認を受けた。

### ■ 地域公共交通網形成計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標	基準年度 (2016年度)	目標年度 (2022年度)	実績 (2019年度/2020年度)		評価
			2019年度	2020年度	
①住民1人あたりの 公共交通年間利用回数※	8.6回/人	8.6回/人以上	2019年度	9.2回/人	👑 達成
			2020年度	7.6回/人	未達成
②北恵那バス路線沿線地区内の 高校生バス通学割合	30.6%	30.6%以上	2019年度	29.7%	未達成
			2020年度	26.6%	未達成

※住民1人あたりの公共交通年間利用回数

- 公共交通利用者数を住民1人あたりに換算して算出
- 公共交通利用者数は中津川市内での移動を反映するため、下記を合計した数とする
  - 北恵那バス年間利用者数
  - 明知鉄道阿木駅と飯沼駅の年間乗車数
  - 自主運行バス年間利用者数（補助対象系統を含む）

## ■ 目標達成状況についての考察 (路線別の事業評価概要)

- ・ 系統ごとに経年比較し、利用状況を把握
- ・ 網形成計画と整合性を図るため、目標値は系統ごとの利用者数を基準年度以上とする

区分	利用人数、達成率、基準以上系統数			主な考察・備考
	2016(基準)	2019(実績)	2020(実績)	
民間路線バス (補助系統)	206,241 -	275,307 👑 133.5% 5/9	257,552 👑 124.9% 4/9	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 苗木城跡への観光客増加で、苗木城線が黒字化 (2019)</li> <li>○ 外国人観光客の増加で、馬籠線の利用者数が増加。あわせて現金収入も増加 (2019)</li> <li>○ 外国人労働者の通勤定期利用が30人増加 (2019)</li> <li>○ 学生ホリデー切符の発売で、中津川市街地から福岡・加子母方面への学生利用が増加 (2019)</li> <li>× 新型コロナウイルスの影響により定期券利用者や観光客利用者が減少 (2020)</li> <li>× 今後、東鉄バス中津川線と蛭川線が廃止になる</li> </ul>
民間路線バス (非補助系統)	320,260 -	297,190 92.8% 8/14	200,119 62.5% 5/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中学生が利用できるように経路や時刻を改正したことで増加 (坂下・阿木地区) (2019、2020)</li> <li>○ 地域要望により経路の延長で増加 (付知地区) (2019)</li> <li>× 新型コロナウイルスの影響で、施設や学校が休業したことで利用者が減少 (2020)</li> <li>× 頻りに利用していた方が利用しなくなる (利用者の高齢化。認知症、施設へ入所、死亡など)</li> <li>× 小中学生数の増減が通学利用者数に直結</li> </ul>
自主運行バス	54,181 -	48,502 89.5% 0/4	41,747 77.1% 0/4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画における年間利用者数の目標値を達成 (2018)</li> <li>目標 400,000人</li> <li>2018 (実績) 408,956人 (達成率102.2%)</li> <li>× 前年度と比べて定期外利用者が減少 (2019)</li> </ul>
コミュニティバス	23,275 -	23,303 👑 100.1% 11/29	18,102 77.8% 7/30	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人口減少している割には利用は維持</li> <li>【参考】住民基本台帳人口 (9月末)</li> <li>2016 (基準) 80,399人</li> <li>2019 (実績) 78,359人 (▲2.5%)</li> <li>2020 (実績) 77,479人 (▲3.6%)</li> </ul>
明知鉄道乗車数 (阿木・飯沼駅)	85,680 -	76,004 88.7% -	68,169 79.6% -	
合計	689,637 -	720,306 👑 104.4% 24/56	585,689 84.9% 16/57	

## 中津川市地域公共交通網形成計画に基づく事業実施を引き続き推進します！

### 主な取り組み その1

事業の進捗状況を踏まえ見直し  
**地域公共交通網形成計画を改定**

#### 課題

- 2018年3月の計画策定以降、事業環境の変化に伴い、新たな事業を計画に位置付ける必要が生じる

#### 対応

- 2019年6月に新規事業の追加、事業の統合、記載内容の修正などを行い、**網計画を改定**した



バスを利用した苗木城跡観光をPR

### 主な取り組み その2

民間路線バスが2021年3月末廃止に  
**コミバスと合わせた路線再編を行いサービス向上へ**

#### 課題

- 東濃鉄道株式会社が運転手不足や収支悪化を理由に、東鉄バス中津川線と蛭川線を廃止
- 東鉄バス廃止後の移動手段を検討し、確保する必要がある

#### 考え方

- 廃止をネガティブに捉えるのではなく、**より良い公共交通を作る契機**とする

網計画の“目指す姿”を体現  
「いつまでも定住できる街に」  
「高校生が自宅から通える」

#### 中津川線対応

- 中津川駅～美乃坂本駅～東鉄恵那営業所間の運行を北恵那交通に委託し、**運行を継続**
- 市民病院受診後にも利用できる便を設定

#### 蛭川線対応

- 東鉄バス廃止路線とコミバスを合わせた再編を実施
  - 特長1 小学生が通学利用できる便を設定**  
(時間が合わず利用が少ない→登下校できる時間と本数に)
  - 特長2 高校生が通学利用できる便を設定**  
(バス通学できない→自宅から通学できるように)
  - 特長3 運行方法の変更 (区域運行化)**